

精神科医療機関・地域事業所におけるリカバリー志向活動の

現状と課題、展望に関するアンケート調査の報告

1. この調査の意義と目的、趣旨

特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構・コンボでは、「精神障害をもつ人たちが主体的に生きていくことができる社会のしくみを作りたい」を使命に活動をしていますが、その中で、「リカバリー」の概念を大切にし、また、リカバリー志向活動・サービスの普及に関する取り組みも行ってきました。

今回、精神科医療機関・地域事業所におけるリカバリー志向活動の現状と課題、展望に関する調査を実施させていただくことで、精神障害がある人のリカバリーの実現に向けて何ができるのか、また、障壁になっていることなどをお伺いしました。

当法人が発行しているメンタルヘルス啓発誌『こころの元気+』は、精神障害のある方やそのご家族の声や経験などを発信するとともに、リカバリーに役立つ取り組みについても当事者の視点で情報を提供しています。『こころの元気+』を精神科医療機関・地域事業所においてグループで活用していただくなど、リカバリー志向の活動や文化を浸透させることに役立つことができないかと考え、その可能性についても今回の調査でお伺いしました。

2. 調査の対象と方法

1) 調査対象

全国の精神科病院や精神科診療所などの医療機関、精神障害のある方を主な支援対象としている地域活動支援センターや就労継続支援事業所などの通所施設を、今回の調査対象としました。これまで当法人がご連絡をさせていただいている機関や施設に依頼をさせていただきました。

- ・ 医療機関（精神科病院：1,735件、精神科診療所：1,497件、計3,232件）
- ・ 地域事業所（地域活動支援センター：453件、就労継続支援・地域移行支援など通所事業所：1,740件、計2,193件）

2) 調査方法

自記式調査票（A4で4頁）を用いた、郵送調査で実施しました。調査内容は同じですが、医療機関と地域事業所とで部署の名称などが異なるため、それぞれ専用の調査票を用意しました。

調査票を送付する調査用封筒には、紙媒体の啓発冊子のサンプルを同封し、リカバリー志向活動の現状と課題、また、啓発冊子へのニーズと活用方法・活用可能性に関するアンケート調査を行いました。

調査時期は、2021年1月に調査票を発送し、回収を行いました。

3) 集計方法

この調査は、精神科医療機関と精神障害がある方を主な対象とした地域事業所を対象に行っています。基本的な集計と分析は、精神科医療機関と地域事業所のクロス集計で行いました。

3. 調査結果の概要

1) 調査の回収状況

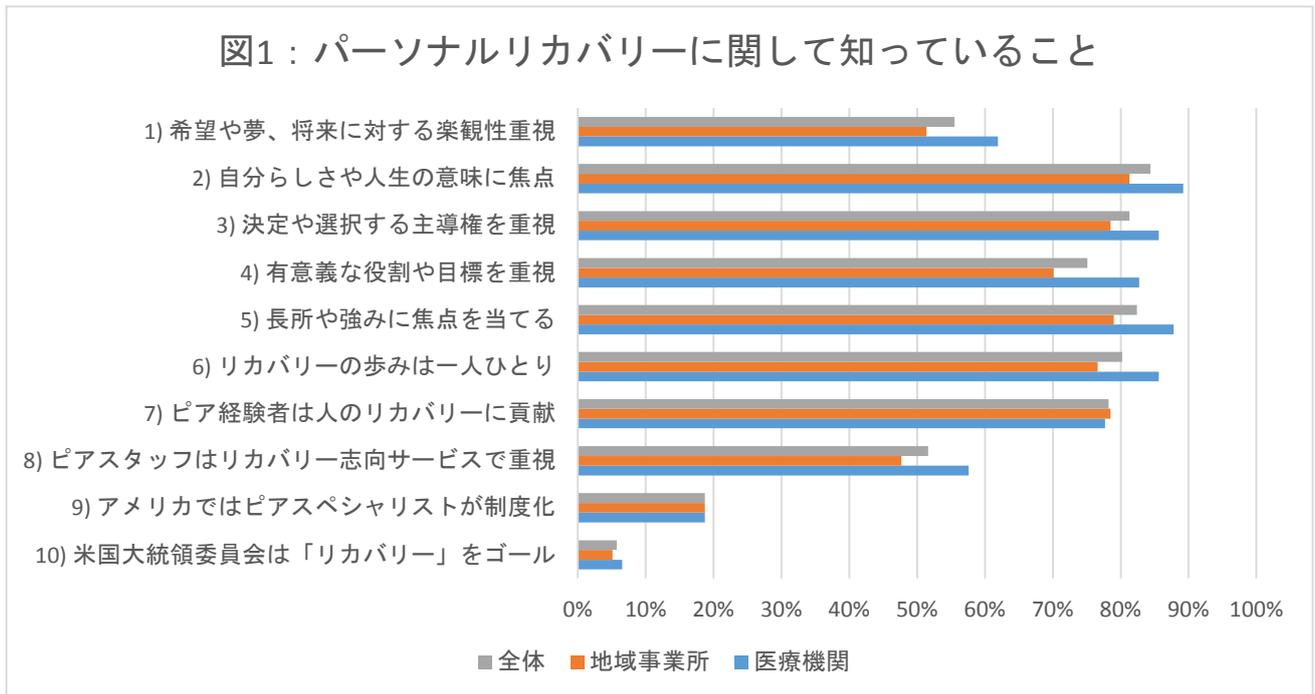
精神科医療機関 139 件（回収率 4.3%）、地域事業所 214 件（回収率 9.8%）、合計 353 件（回収率 6.5%）でした（表 1）。

表 1 調査の回収状況

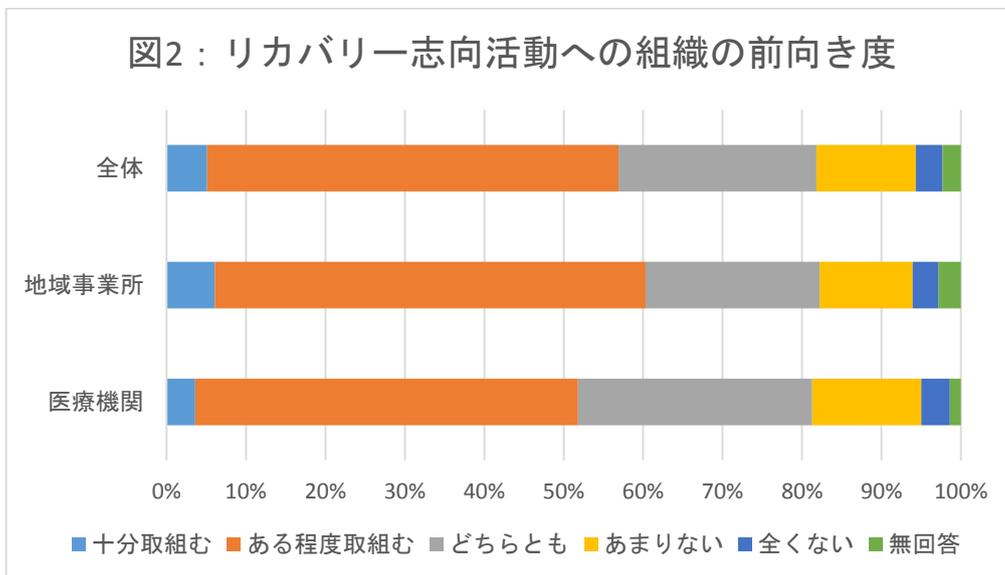
	医療機関		地域事業所		全体	
発送数	施設数		施設数		施設数	
精神科病院	1735				1735	
精神科診療所	1497				1497	
（小計）医療機関	3232				3232	
地域活動支援センター			453		453	
就労継続支援・就労移行支援など通所施設			1740		1740	
（小計）地域事業所			2193		2193	
総計	3232		2193		5425	
回収数	n	回収率 (%)	n	回収率 (%)	n	回収率 (%)
精神科病院	97	5.6			97	5.6
精神科診療所	33	2.2			33	2.2
無回答	9				9	
（小計）医療機関	139	4.3			139	3.9
地域活動支援センター			92	15.7	92	15.7
就労継続支援・就労移行支援など通所施設			122	7.0	122	7.0
（小計）地域事業所			214	9.8	214	9.8
総計	139	4.3	214	9.8	353	6.5

2) リカバリーに対する認知、組織の前向き度、組織的取組みで重要なこと

- ・ パーソナルリカバリーに関して知っていることについては、アンケートに回答くださったご担当の方々の認識は、図1に示すように良好な結果でありました。

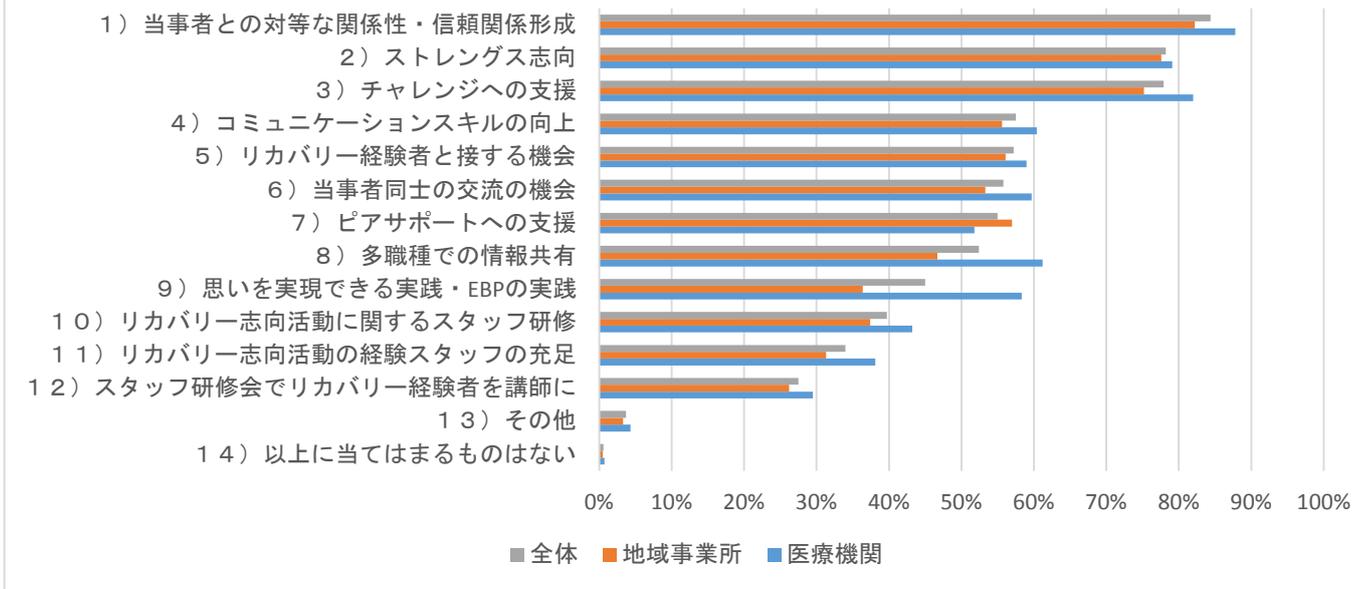


- ・ リカバリー志向活動への組織の前向き度については、半数以上が「十分取組む」「ある程度取組む」を選択されていました（図2）。



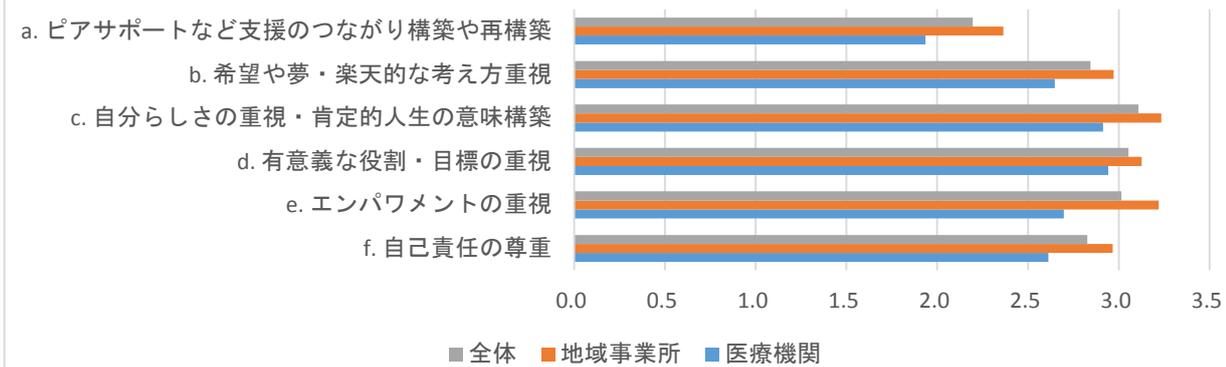
- リカバリー志向活動を組織として行うために重要なこととしては、「1 精神障害のある当事者との対等な関係性・信頼関係の形成（全体 84.4%）」「2 ストレングス志向、利用者の良いところに目を向ける支援に力を入れる（全体 78.2%）」「3 精神障害のある当事者それぞれのチャレンジへの支援（全体 77.9%）」が地域事業所、精神科医療機関ともに多く挙げられていました（図3）。精神科医療機関が相対的に多い項目は、「8 多職種での情報共有」「9 当事者本人の思いを実現できる実践を行う、科学的根拠（EBP）に基づく実践の実施」となりました。

図3：リカバリー志向活動を組織として行うために重要なこと



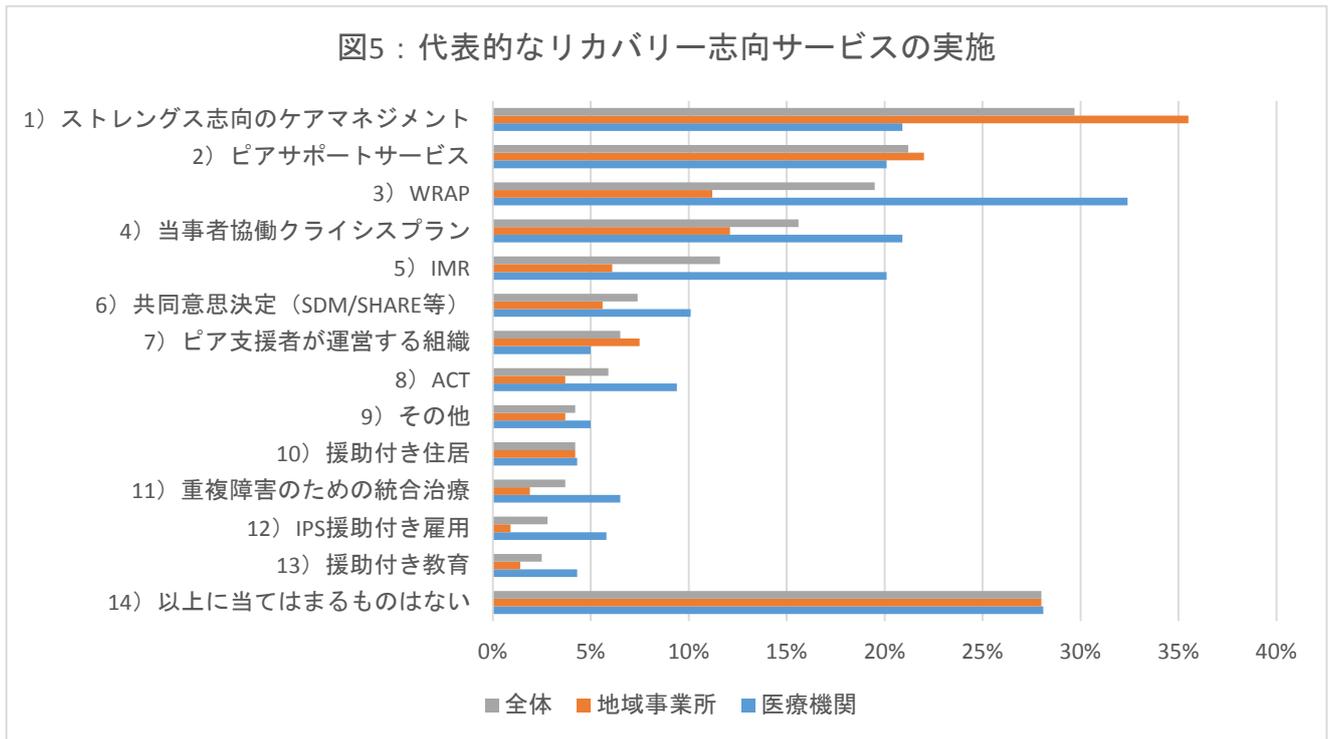
- リカバリー志向活動・サービスの要素として重要な6項目について、担当者が所属している組織全体の取組みを、「大いに力を入れる（4点）」「ある程度力を入れる（3点）」「多少は取り組む（2点）」「全く力を入れていない（1点）」として評価していただき、その平均値を計算しました（図4）。全体では4つの項目の平均が2点と3点の間にあり、2つの項目の平均が3点を少し超えるという結果となりました。多くが「ある程度力を入れる（3点）」「多少は取り組む（2点）」という状況にあると言えるでしょう。
- 地域事業所が組織としてより積極的に取り組みを行っていることが示唆されます。
- 「c. 自分らしさの重視、自分らしい肯定的人生の意味の構築や再構築」「d. 生活の中の有意義な役割や目標の重視」の2項目について、多くの機関で力を入れていることが見受けられます。

図4：支援におけるリカバリー要素で力を入れていること



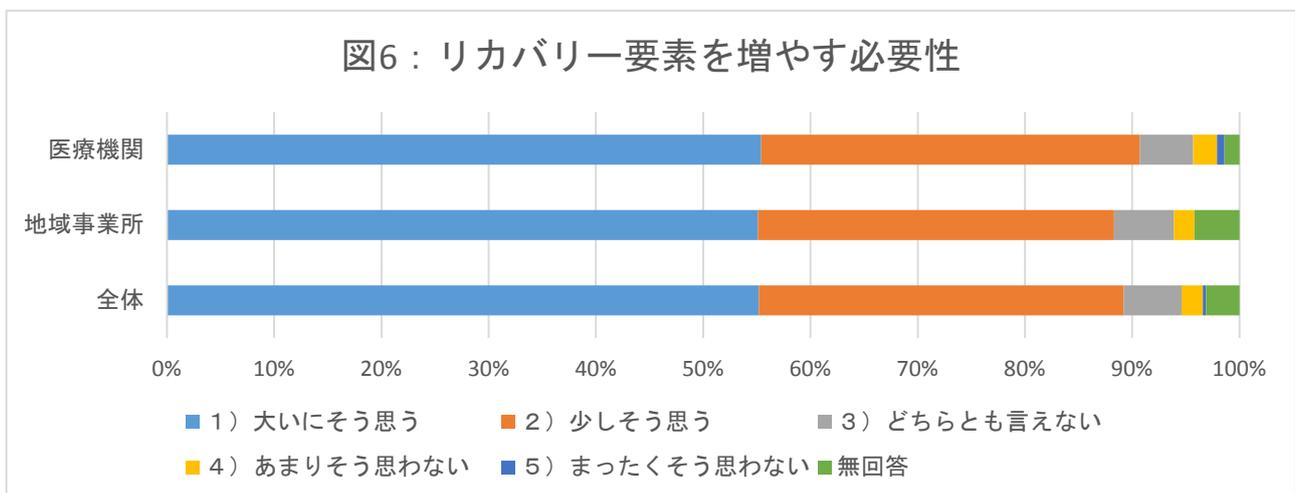
3) 代表的な「リカバリー志向活動・サービス」の取組み

- 世界的に重視されている代表的なリカバリー志向活動・サービスの導入については、図5に示すように13項目の活動・サービスを提示し、その実施の有無について伺いました。
- 「1 ストレngths志向のケアマネジメント」が全体で29.7%、「2 ピアサポートサービス」が21.2%、「3 元気回復行動プラン (WRAP)」が19.5%、「4 当事者と協働作成によるクライシスプラン」が15.6%と上位を占めていました。精神科医療機関と地域事業所では、取り組まれている活動に違いがあることもわかりました。
- 全体で28.0%の機関・施設が今回提示した活動・サービスを一つも実施していないこともわかりました。

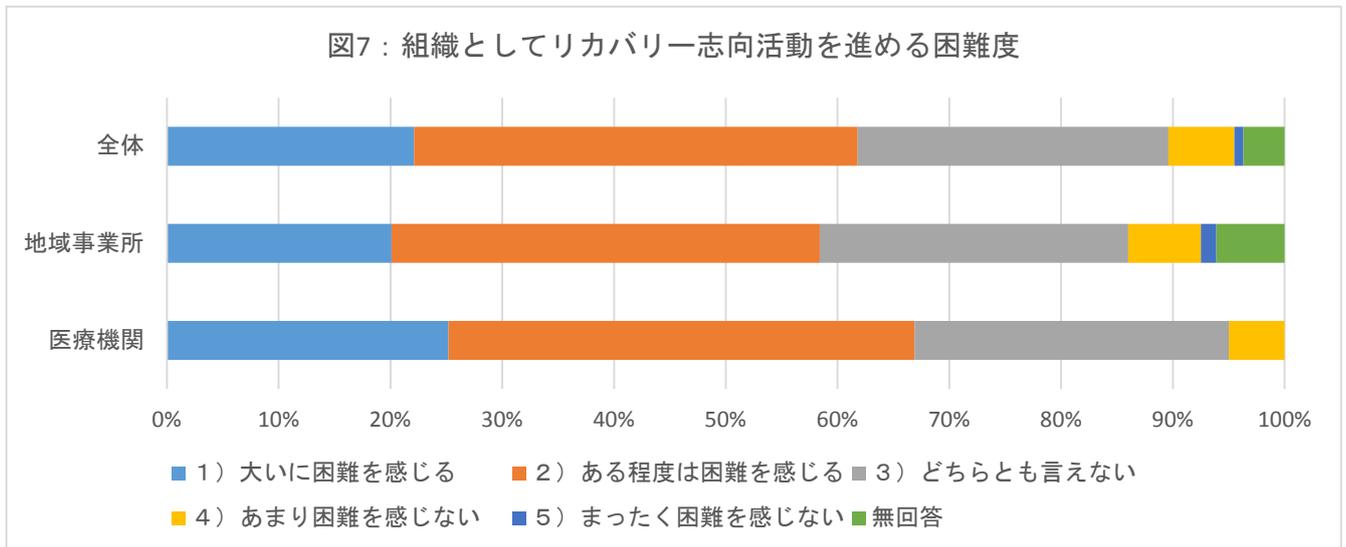


4) 「リカバリー志向活動・サービス」実施の課題、困難状況

- 図4に示したリカバリー志向活動・サービスの要素6項目について、その取り組みを増やす必要性について伺った結果が図6です。全体では「大いにそう思う」が55.2%、「少し思う」が34.0%となり、89.2%が「そう思う」と回答しました。

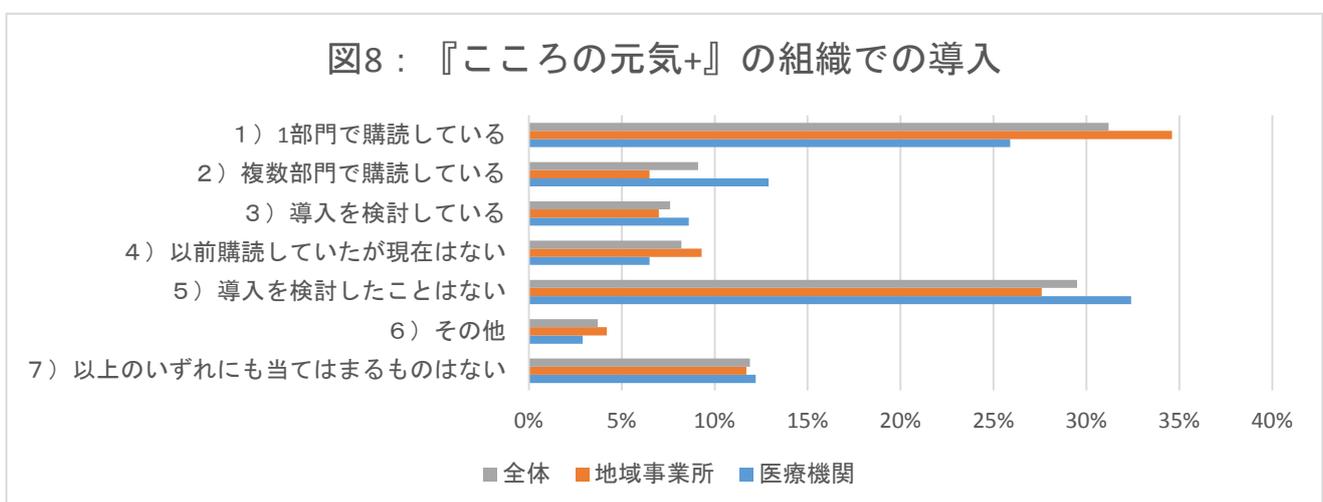


- 各組織でリカバリー志向活動・サービスを進める上での困難度についても伺いました。図7に示すように全体では「大いに困難を感じる」が22.1%、「ある程度は困難を感じる」が39.7%で、合わせると61.8%が「困難を感じる」と回答されていました。
- 困難の内容として全体で、「リカバリー志向活動に取り組む知識・経験・ノウハウの乏しさ」が47.0%と最も多く、「リカバリー志向活動に取り組む人材の確保」が39.7%、「ピア支援者の確保」が28.6%、「事業所・法人全体の組織的合意形成の困難」が26.6%と続いていました。



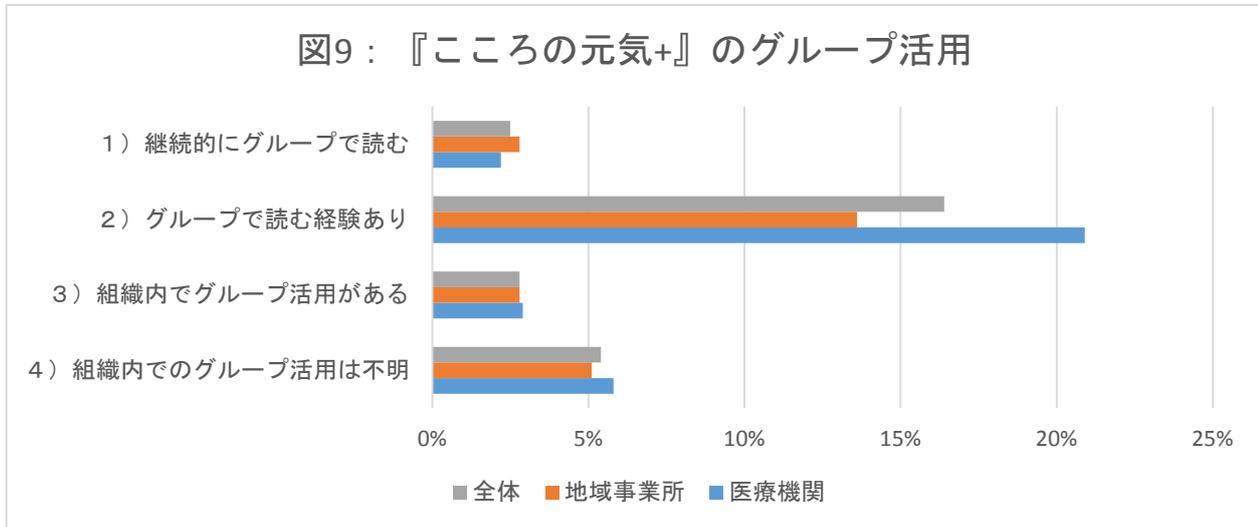
5) 『こころの元気+』の導入状況

- 『こころの元気+』は具体的なリカバリー志向活動・サービスについて情報発信をしていますが、その『こころの元気+』の組織における導入状況について伺いました。導入している組織が全体で40.3%となっていました。
- 図8で『こころの元気+』の組織での導入状況について示しています。1部門での導入が31.2%、複数部門での導入が9.1%となっていました。
- 精神科医療機関での導入部門で上位を占めていたのが「デイケア」(28.1%)、「外来(待合室等)」(22.3%)、「作業療法部門」(17.3%)でした。地域事業所では、「貴事業所」(39.7%)、「貴事業所が所属する法人内の他事業所」(13.1%)となっていました。



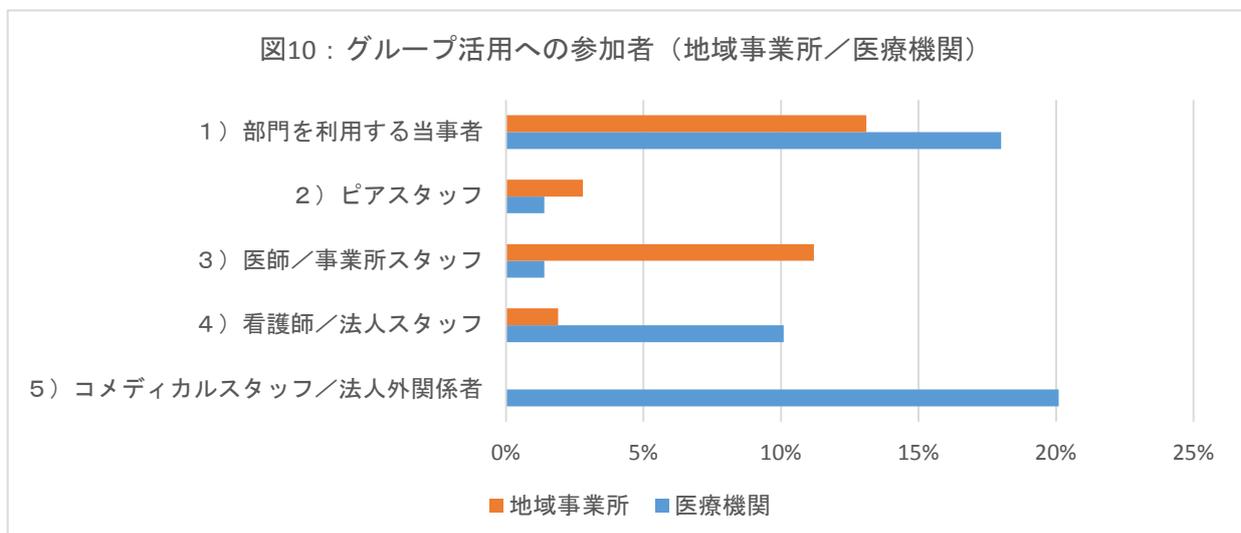
6) 『こころの元気+』のグループ活用

- ・ 図9に示すように『こころの元気+』のグループ活用については、「継続的にグループで読んでいる」(2.5%)、「継続的ではないがグループで読んだこと、活用経験がある」(16.4%)、「組織内でグループでの活用がある」(2.8%)を含めて21.7%ありました。



7) 『こころの元気+』のグループ活用の具体的な内容

- ・ 図10では、グループ活用への参加者について示しています。部門を利用する当事者が地域事業所で13.1%、医療機関で18.0%となっています。また、医療機関ではコメディカルスタッフや看護師の参加が多く、地域事業所では事業所スタッフの参加が多くなっています。ピアスタッフの参加も見受けられます。
- ・ 「特集テーマで利用者の役に立ちそうなものや関心が高そうなテーマを取り上げ、一緒に読む」「スタッフ研修会での活用」「グループ活動での学習教材として用いる」「『お困りですか？ではほかの人に聞いてみましょう』の記事の読み合わせをし、意見交換を行う』、「心理教育プログラムへの導入」「掲載されていたアンケートを利用者と共有し、同様のアンケートをとって話し合いを行っている」「内容を読み合わせ、自身の体験談、読んでの感想や気づきを自由に話してもらおう」など、様々な活用の実際について教えていただきました。



8) 『こころの元気+』のグループ活用に対する意見

- リハビリ志向活動・サービスを普及するために『こころの元気+』のグループ活用を進めることについてご意見を伺い、その結果をまとめたのが図11です。全体では、「1重要・活用を強化したい」が6.8%、「重要・導入を検討したい」が23.8%となっていました。その一方、「3重要だが直ぐに導入は困難」が53.3%を占めていました。グループ活用を進める上の困難について具体的に伺い、その解決に向けた検討などが必要と考えられます。
- 図12では、当法人が検討している『こころの元気+』のグループ活用を進める方針について伺った結果を示しています。「1重要・積極的に協力したい」が7.4%、「重要・導入を検討したい」が20.1%、「重要だが直ぐに協力は困難」が54.0%となっていました。前問と同様の傾向となっています。

図11：『こころの元気+』グループ活用への意見

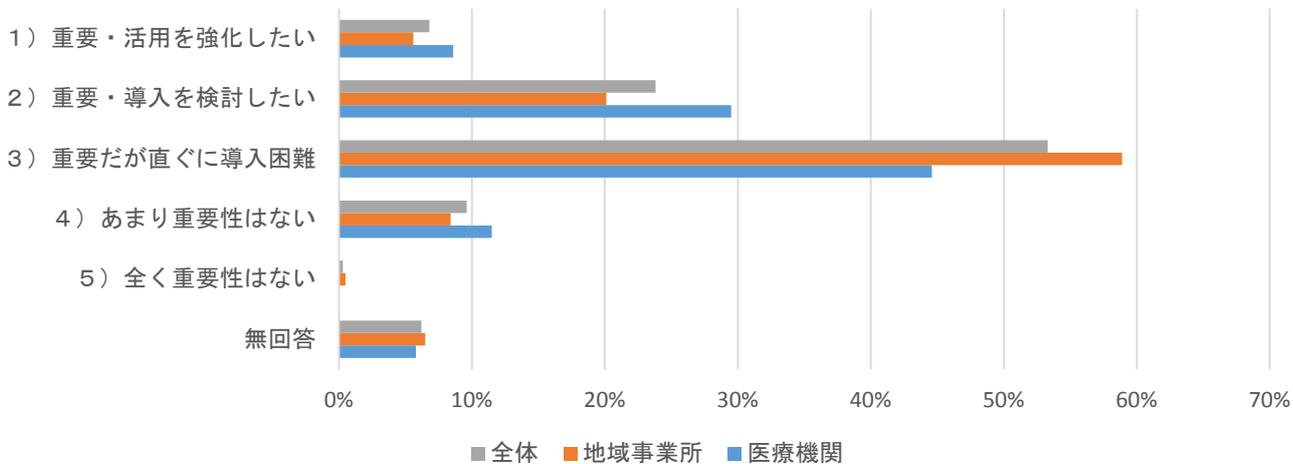
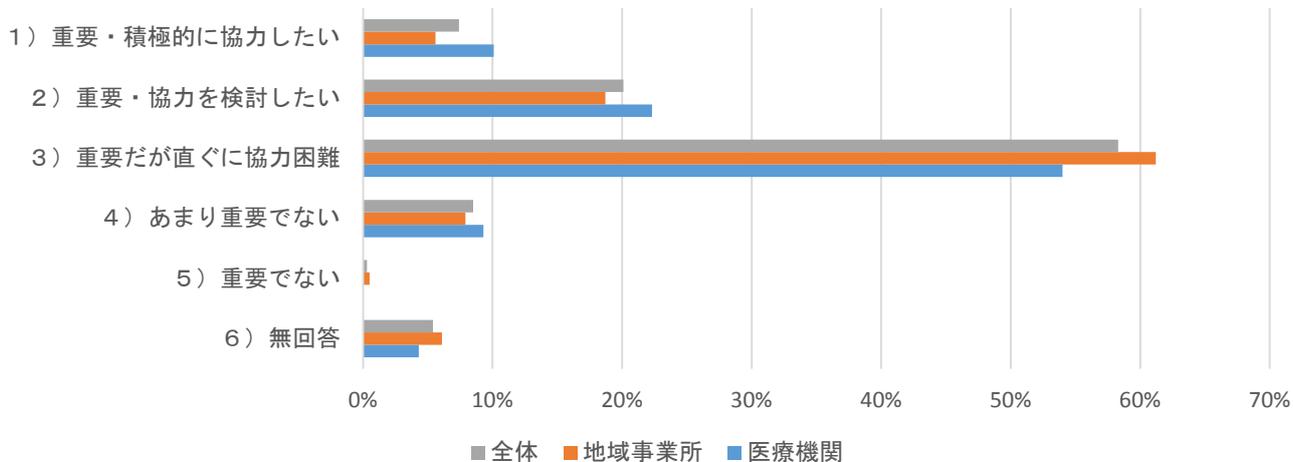


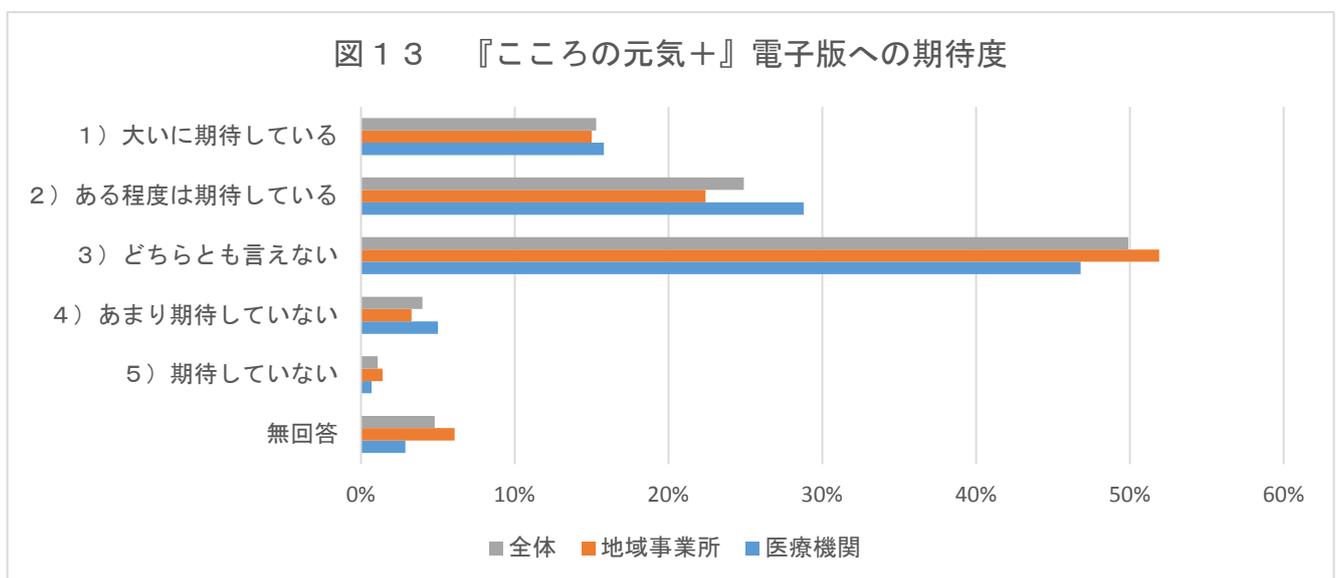
図12：『こころの元気+』グループ活用への協力意向



9) 『こころの元気+』 電子版の発刊について

- 『こころの元気+』をさらに多くの方々にお読みいただくために、電子版を発刊しています。この取り組みについての期待度についても伺いました。全体で「大いに期待している」が 15.3%、「ある程度は期待している」が 24.9%となっていました。一方、「どちらとも言えない」が 49.9%となっていました。電子版を発刊してから時間が経っていないこともあり、現時点で判断することが困難な点もあったかもしれません。
- 「期待をしている」と回答された方からは、「情報にアクセスしやすくなり、さらに多くの人、そして必要な人に届くことを期待する」「グループ活用の際にスクリーンに投影して使える」「パワーポイントなどのデータがあると、グループ活用しやすい」「SNS との連動」「最新情報の掲載」「検索機能で過去の記事が探せると良い」など、さまざまなご意見をいただきました。
- 一方で「利用者のスマートフォンの普及率が低い」「高齢の方が多いのでインターネットを使わない」というご意見もあり、紙媒体の必要性も示唆されました。

図 1 3 『こころの元気+』 電子版への期待度



4. まとめ

- 今回の調査の回答期間は1ヶ月ほどとしましたが、回収率は限定的となりました。また、調査の回答者は、対象機関・施設のリハビリテーション部門の責任者やサービス管理責任者などと限定的になっており、リハビリ志向活動・サービスに関して前向きなご意見が多い印象を受けました。しかし、全国から350件を超える回答を得ることができ、リハビリ志向活動・サービスの取り組みについては少しずつ確実に広がっていることがうかがえました。
- リハビリ志向活動・サービスを広めていく上での困難として、これらに取組む知識や経験、ノウハウの乏しさが高い割合で挙げられており、さらなる情報提供や研修の機会の必要性など、具体的に取組むべき課題も見えてきました。
- リハビリ志向活動・サービスについて発信する（情報提供）の媒体のひとつとしての『こころの元気+』の導入に関しては、その導入率が全体の40.3%となっていました。代表的なリハビリ志向活動・サービスに比して遜色のない状況でした。
- 『こころの元気+』のグループ活用については、当法人でも様々な活用事例を収集するなどしてそのあり方を検討していますが、今回21.7%の機関・施設においてそれぞれの方法でグループ活用に取り組まれていることが確認できました。『こころの元気+』を活用してリハビリ志向活動・サービスを推進していくためのネットワークを、今後形成していくことも必要と考えられます。
- 『こころの元気+』電子版に対する期待についても今回伺いました。まだ発刊されてから日も浅く、まだ未知数なところはありますが、グループにおける具体的な電子版の活用方法なども含めて具体的な期待や活用法などを伺うことができ、今後の『こころの元気+』電子版の取り組みの参考にしていただければと思います。